

予告

イエローバスのダイヤ改正について

安来市では利用状況の他、小中学校の下课時間の変更や運転手の総労働時間の短縮が必要な2024年問題に対応するため、イエローバスのダイヤ改正を予定しています。

時刻の詳細は、市ホームページや広報やすぎ3月号（2月20日発行）でお知らせするほか、広報やすぎ4月号（3月19日発行）配布時に改正後の時刻表を全戸配布しますのでご確認ください。



◎ダイヤ改正予定日 令和6年4月1日

ダイヤ改正にあわせて、「安来～吉田線」の最終便では、一部予約制の運行を導入します。

○和鋼博物館前～安来駅～赤崎の区間

現在同様で定時定路線の運行とします。

○赤崎～上吉田の区間

赤崎～上吉田の運行は、乗客の目的地までとし、乗客がいなくなり次第運行を終了します。この区間で乗車される人は、運行日の18時30分までに安来バスターミナル（☎22-0833）まで電話予約してください。予約の無い場合、赤崎から先では目的地を確認させていただき、直接向かいますのでご協力をお願いします。

問い合わせ 地域振興課 ☎23-3069

歴史資料館資料 連載⑩知っておきたい 安来市の歴史

安来市立歴史資料館の展示品を通して安来市の歴史を紹介する、このシリーズ。第11回は、広瀬藩のお話です。

1666（寛文6）年2月3日、松江藩主松平直政が亡くなると、長男の綱隆が跡を継ぎました。同年4月29日、綱隆と弟の近栄、隆政は江戸城で四代將軍徳川家綱に謁見し、近栄は3万石、隆政は1万石の分知（相続分割）を許可され、ここに広瀬藩と母里藩が誕生しました。

松江藩は、前の藩主であった堀尾氏、京極氏両家に後継者がいなかったため改易（取りつぶし）となったことから、綱隆は分家を作ることで後継者問題を解決し、本家の存続を図ったのでした。

直政は徳川家康の孫ですから、近栄はひ孫になります。直政は徳川將軍家一門として、石高は少ないながらも高い格式を与えられていました。広瀬藩も1850（嘉永3）年には城主格に格上げされています。

広瀬藩が誕生した時、富田川は大洪水により流れを変え、かつての富田城の城下町は川底に沈んで

元文（宝暦）年間の日記 記拔書（秦家文書）



しまいました。近栄は江戸にいたため、綱隆が広瀬に来る所を決め、新たな城下町づくりが始まりました。藩邸は現在の広瀬社会福祉センターのある場所から西の山裾までの範囲でした。

当時の面影は広瀬小学校の庭（鈴木家老邸跡の庭園）、広瀬社会福祉センター敷地の東端に残る土塁跡、外堀跡等に見ることができます。

歴史資料館では、広瀬藩時代に町の大年寄を代々勤め、酒造業やたたら製鉄、金融業を営んだ秦家の古文書を収蔵・展示しています。

現在は、1846（弘化3）年3月15日から6月1日まで105日かけて東国へ旅行した時の旅行記の一部を展示しています。道路改修等の慈善事業にも私財を投じた秦家は、1869（明治2）年には広瀬藩の藩士に列せられました。

問い合わせ

歴史資料館 ☎32・2767

